

特別活動の社会性獲得に関する調査報告

～大学生が認める沖縄の特別活動の特徴～

三村和則

1. 調査の目的と方法

学習指導要領の定める学校教育活動の領域の一つである「特別活動」が社会性獲得にどのように寄与するか。大学生を対象に中学校と高校時代の経験に基づく認識や判断を調査した先行研究が存在している。日本特別活動学会研究開発委員会による「特別活動の社会性獲得に関する調査報告書～大学生が認める特別活動の多大な効果～」(2011年3月)である。(注1)筆者の勤務大学においても同様の調査結果が出るのか、その追試験を行った。

同様の結果が出れば、先行研究が示している特別活動の成果と課題を共有していきたいと考えた。一方、勤務大学の学生の9割以上は沖縄県内の出身者である。そのため、もし調査結果に先行研究とは異なる特徴があれば、それは沖縄での特別活動の特徴を捉える一端とすることができると考えた。

調査方法は、先行研究と同一の方法で大学生を対象に直接アンケートを実施した(調査用紙は本稿末尾に掲載。鏡文を調査対象者に合わせたものにしたが、内容は同一である。)。調査対象者は、勤務大学(沖縄国際大学)で担当している「教職研究Ⅰ」のクラスの受講者である。回収率は100%で回答者数は153名で、1年生が殆どである。調査の時期は、2012年12月(31名)と2013年4月(122名)である。

2. 先行研究の概要

追試した先行研究の概要は次の通りである。

対象者は、白鷗大学、武蔵野大学、桃山学院大学、及び早稲田大学の学生で、回答者は中学校時代と高校時代について各286名、271名であった。学生の学年は不明である。

調査内容は、A〈学級活動・ホームルーム活動〉B〈生徒会活動〉C〈学校行事の内の文化・スポーツ活動〉D〈部活動〉E〈特別活動全体〉F〈特別活動への参加意識と担任担当・学校の指導状況〉について55項目である。調査内容には本来課外活動である部活動が加えてある。『学習指導要領』(2008/9年版)が、生徒の責任感や連帯感等をはぐくむという評価に立ち、部活動について学校教育の一環として教育課程との関連が図られるよう留意すべき旨を規定していることから、妥当だと筆者は考える。

先行研究の結果データは表1と表2の通りで、各項目について下欄の数値である。質問番号と質問内容は調査用紙にある通りである。

先行研究は大学生が認める特別活動の役割の効果が想定以上であったと分析している。その根拠は、特別活動の総合的判断となる E の項目（特別活動全体でどのようなことが身についたか）をみると、「人間関係形成力」「コミュニケーション力」「チームワーク力」の形成が 90%（回答番号 3「ややある」と 4「かなりある」の数値の和である。以下、本稿で出てくる数値については特に断らない限り回答番号 3 と 4 の数値の和である。）を超える高い数値を示し、この他「集団意識」「粘り強さ」「主体的行動力」「責任感」「主体的表現力」「状況判断力」が 80%を超えているからだ。

学級・ホームルーム活動について、80%を超えたのは中学校での「学級としてまとまりのある活動が多かった」と「学級の役割を分担したり仕事を分け合ったりした」だけで、これらは高校では 60%台で、高校は中学校に比べ概ね低調であるとしている。この高校の方が中学校より低調傾向というのは先行研究全体を通して言える。ただし「進路指導についての知識を多く学ぶことができた」については、高校では進路が中学校に比べて多様になることから、高校が中学校の数値を上回っていた。

生徒会活動については、中高共 60%が最高で、全体的に低調であった。「生徒会が活発で選挙に立候補する生徒が多かった」の数値が極端に低く課題である、としている。

学校行事については、文化・スポーツ活動に限定されているが、「チームワークを発揮できた」「学校行事で目標達成感が高まった」が高かった。なお、「自分たちで企画したり、構想することが多かった」「生徒の創意工夫が発揮できた」は高校が中学校よりも有意に高かった。

部活動については、どの項目も総じて高く、中学校と高校の差もあまり見られなかった。高校では他の活動に比べて高い傾向が見られた。

教員・学校の指導状況と生徒の参加意識については、学校行事と部活動の場合、どちらも高い数値で、また、教員・学校の指導状況より生徒の参加意識の方が上回る値であった。一方、学級・ホームルーム活動と生徒会活動の場合は教員・学校の指導状況が生徒の参加意識を上回りギャップがあった。生徒会活動については、教員・学校の指導も低調だったが、生徒の参加意識はそれ以上に極端に低調であった。

以上のことから先行研究は、様々に課題があるものの、総合的判断に見られるように特別活動の価値はきわめて高いと言える。特別活動は軽視されることなく、一層積極的に進める必要がある、と結論づけている。(注 2)

3. 沖縄の中学校の結果

今回行った調査結果のデータは表 1 と表 2 の通りで、各項目について上欄に示された数値である（小数点第 2 位を四捨五入）。まず、中学校について見ていく。

(1) 数値の比較と考察

42 項目が先行研究の数値を上回った。一方、下回った項目も 13 項目あった。

上回った項目の数が下回った項目の数より圧倒的に多かったことから、沖縄の中学校の特別活動は比較的盛んに行われていると言える。その内特に上回った項目から、「(学級活動で)生活の管理の仕方などをたくさん学ぶことができた(生活管理)」「(特別活動全体で)社会に役立とうとする気持ち(社会貢献意識)」「生徒会の担当や学校の指導」が成果をあげたり、熱心に行われたりしている様子がわかる。

一方、先行研究より下回った項目から、沖縄の中学校では次のようなことが課題として浮かび上がってくる。

- ・学級としてまとまりのある活動が必ずしも多くない
- ・学校行事で自分たちの思いを発信することが十分にできていない
- ・学校行事への参加が非常に熱心というわけではない
- ・部活動に自分から進んで一生懸命努力することが必ずしも多くない
- ・部活動への参加が非常に熱心というわけではない

これらの課題を見ると、学校行事と部活動に課題があるということがわかる。

生徒の参加意識と教員・学校の指導状況とのギャップを見ることができる F〈特別活動への参加意識と担任担当・学校の指導状況〉では、先行研究では学校行事と部活動の場合、教員・学校の熱心さの数値を生徒の熱心さが上回っていたが、沖縄では上回っていなかった。つまり、沖縄では学級活動と生徒会活動だけでなく学校行事と部活動も加えた総ての活動で、教員・学校の熱心さが生徒の熱心さを上回っていなかった。

さらに学校行事と部活動の場合、教員・学校の指導の熱心さの数値が先行研究を上回りながら、生徒の参加意識の数値は逆に先行研究より下回る結果になっている。このことから沖縄の中学校では、学校行事と部活動についてはその指導が生徒の参加に結びつかない「空回り」をしている可能性がある。学校行事には特にそのことが当てはまる。

なお部活動については、「全国学力・学習状況調査」の結果で沖縄県の中学生の学力低迷の状況が浮き彫りになっていることから、教員の部活動指導の熱心さが高じ教科指導にしわ寄せが行き、学力低迷の一因となっているのではないかという指摘が側聞される。この結果はその指摘の裏付けとなる可能性がある。

生徒会活動については、沖縄の中学校でも生徒の参加が一番熱心でない分野である。特に役員立候補が非常に少ないことがわかる。

(2) 数値の高い項目ならびに低い項目の比較と考察

数値の高い項目を見ると、先行研究と同様の傾向があり、部活動の果たしている役割が他の活動より大きいことがわかる。これは他の活動の効果が部活動に及ばないということを示唆しており、わが国の中学校の特別活動の課題を共通に提起していると言える。

数値の低い項目についても先行研究と同様で、既述の通り生徒会活動が低調であった。中でも選

挙への立候補者が少ないことがわかる。

(3) その他特徴のあった項目と考察

その他に特徴のあった項目として、沖縄の中学校の値が先行研究と沖縄の高校のどの値と比べても最も低かった項目を見ると、上述の浮かび上がった課題と重なる「学校行事で自分たちの思いを発信すること」、「(部活動で)自分から進んで一生懸命努力することが多かった」及び「学校行事への参加」であった。これらの3つの低迷はやはり沖縄の中学校の課題ということになる。

4. 沖縄の高校の結果と考察

次に、高校の結果について見ていく。

(1) 数値の比較と考察

沖縄の高校が先行研究の数値を上回った項目は52項目にのぼった。その内35項目は10ポイント以上上回った。さらにその内20ポイント以上上回った項目が18項目あった。その18項目の内13項目はホームルーム活動と生徒会に偏在していた。

一方、沖縄の数値が下回った項目は、「(部活動)自分から進んで一生懸命努力することが多かった」、「リーダーシップの力」及び「部活動への参加」のわずか3項目であった。部活動関係が2つを占めている点は特徴であるが、3項目という数は中学校の状況とは明らかに異なり、少ない。

F〈特別活動への参加意識と担任担当・学校の指導状況〉で見ることができる教員・学校の指導状況と生徒の参加意識とのギャップの結果は、中学校と同じであった。しかし、学校行事ではギャップは少ない。部活動にギャップが多かった。

以上のことから、次のことが言えるのではないだろうか。

第1に、沖縄の高校の特別活動は全体的に異常なほど盛んに行われ、成果をあげている。沖縄の学校がということではなく、高校が特別だということである。

第2に、数値が先行研究を上回った項目ベスト3の中に「学級の問題について解決のための話し合いが有効であった」があったことは注目してよい。この項目は沖縄の中学校でも先行研究の中学校と高校でも皆低い数値であるが、沖縄の高校の数値だけが突出して高いからだ(先行研究を40.5ポイント上回っている)。また、話し合いで問題を解決することは教師の指導上簡単にはできないからだ。沖縄の高校の特長として捉えることができる。

第3に、沖縄が大きな差をつけて先行研究の数値を上回った項目がホームルーム活動と生徒会活動に偏在していることから、沖縄の高校では特にホームルーム活動と生徒会活動が相対的に良好に実施されていると言える。一方、部活動については、大きな差をつけて先行研究の数値を上回っている項目がないことから、ホームルーム活動と生徒会活動ほど盛んではないということが言える。

第4に、沖縄が下回った項目は3項目しかなかったが、その内2項目はやはり部活動関係である。また、部活動については教員・学校の指導の熱心さと生徒の参加意識のギャップが大きい。したが

って高校でも部活動の指導が生徒の参加に結びつかない「空回り」をしている可能性がある。

(2) 数値の高い項目ならびに低い項目の比較と考察

中学校の場合と同様、数値の高い項目と低い項目について先行研究との比較をしてみた。

特別活動全体(E) 参加と学校の指導(F)を除いた項目の内、数値の高いものを見ると、部活関係が入っていないのが先行研究と違う明らかな特徴である。この結果は、沖縄の高校では部活動には課題がある、という先の考察と一致する。

また、「進路についての知識を多く学ぶことができた」の結果は興味深い。先行研究でもこの項目の数値が高いが、沖縄ではベスト3に入っている。高校では教員が親身になって進路相談に乗ってくれたという学生の声を筆者はふだんから耳にしてきたが、この結果と符合している。

一方数値の低い項目は総て生徒会関係である。生徒会活動の在り方が今日のわが国の中等学校において共通に根深い課題となっていることを物語っている。

(3) その他特徴のあった項目と考察

その他特徴のあった項目では、沖縄の高校の値が先行研究と沖縄の中学校のどの値と比べても最も低いという項目が2つあった。「(特別活動全体で)リーダーシップ力」と「部活動への参加」である。沖縄の高校の数値は全体を通して高いので、この2項目は興味深い。リーダーシップ形成と部活動への参加意欲の喚起が高校での課題だと言えよう。

一方、「社会に役立つとする気持ち」(社会貢献意識)が中学校同様先行研究の値と比べて非常に高かった。沖縄での特別活動の持つ特色として捉えておくことは意味があるだろう。

5. 沖縄での中学校と高校の比較

先行研究では全体的に中学校の数値が高く高校は低い傾向にあった。ところが沖縄では、逆転現象が起きている。先行研究では中学校が高校を上回っている項目が38項目あったが、沖縄ではわずか7項目しかない大変興味深い結果となっているのだ。(表3参照)

表3 数値分布の先行研究と沖縄の比較

	先行研究	沖縄
中学校の値 \geq 高校の値	38項目	7項目
高校の値 $>$ 中学校の値	17項目	48項目

そこでこの節では、この点に着目してみたい。

(1) 数値の比較と考察

中学校が高校を上回った項目は、部活動の項目が総てである。また、高校が上回っても中学校との差がわずかな項目はやはり部活動関係である。このことから、沖縄の中学校では部活動の指導が熱心であり、また盛んに行われていると言えよう。ただし、既に指摘した通り、部活動の効率的指導が課題としてあげられる。

先行研究では中学校が優勢だが沖縄では高校が優勢で、沖縄の中学校と大きな差をつけて上回っている項目を見ると、「学校行事で自分たちの思いを発信することができた」(24.2 ポイント多い)や「学級の問題について解決のための話し合いが有効であった」(20.8 ポイント多い)などであった。沖縄の高校では豊かな学校行事と学級生活を体験できる機会が幸いに多いと言えるのではないだろうか。ただし学校行事での発進力の差が大きいのは、沖縄の中学校の値が先行研究に比べ低いことも原因している。

学級での話し合いでの問題解決は沖縄の中学校も先行研究に比べ値が高いが、沖縄の高校はそれに増して高い。既述の通りやはり沖縄の高校の特長的な傾向であると言える。

(2) 沖縄の中高「逆転現象」について－学生の捉え方から－

先行研究では全体的に中学校の数値が高く高校は低い傾向にあったが、沖縄では「逆転現象」が起きている。このことを沖縄の学生はどう捉えるか。また、その理由に心あたりはあるかを、アンケート形式で学生に尋ねてみた。対象は教職課程科目の「特別活動研究」の受講者で、沖縄の中学校と高校を卒業した学生で、2年生が主である。受講生ほぼ全員の37名の回答を得た。

その結果によると、中学校より高校の方が特別活動は充実していたので「逆転現象」に違和感はないという学生が多かった。そして「逆転現象」の理由として、おおよそ次のようなことが考えられるのではないかということであった。第1は、中学校の特別活動の内容は一方的な教師主導で実施されることが多く、型にはまっていた。しかし高校では、生徒の意見が尊重され自由に行うことができるが多かったからではないか。このことは特に学校行事に当てはまるようであった。第2は、県外の高校生の生活は大学受験中心になっているからではないか。裏を返せば、県内の高校生は勉強に余力を入れていないからではないか。

このような指摘を代表するアンケート結果を2つ抜粋しておく。(／は改行)

「・・・沖縄の結果は何も疑問に感じませんでした。これが普通だと思っていたので、県外大学生の結果に驚きました。／中学校より高校の方が生徒会の活動が活発で、生徒会が学校行事を仕切って、催し物のリクエストを生徒から聞き出しそれを行うなど、生徒の要望が通っていたように感じます。中学校は決められた催し物をやっていただけのように記憶しています。」

「県外大学生は・・・高校では大学に進学する生徒が多いため、センター試験や私立の一般入試の対策の時間に充てられ、特別活動の時間が削られるため、中学校の方が特別活動が多くなったのではないかと思った。／中学時代には陸上や合唱コンクール、体育祭があったが、事前にやることが決められていて話し合う機会がなかった。高校時代は文化祭や体育祭、舞台祭があった。これらの行事では生徒の間で話し合う時間が授業中にも設けられた。そのため、納得するまで話し合ったりやりたいことができた。自分たちの思いを形にすること、団結することができて楽しかった。それが他の人も同じであるから『逆転現象』が起こっているのではないかと思います。」

以上の沖縄の中高「逆転現象」についての学生の捉え方から、沖縄の中学校の特別活動が生徒の

自主性や創意工夫を発揮させる余裕が失われているという意味において、管理主義的な傾向を帯びているという問題が浮かび上がってきているとは言えないだろうか。特に学校行事においてそのことは当てはまる。そしてそのことは既述の指導の「空回り」とも一致する。

一方、この中高「逆転現象」は、特別活動が盛んに行われているという意味で肯定的に捉えてよいはずの沖縄の高校にも、逆にそれがための問題を抱えているということを浮かび上がらせている。すなわち、特別活動が盛んなだけそれだけ大学進学指導がそれほど熱心に行われていないのではないか、という問題である。

6. 総括－沖縄の特別活動の特徴と課題

沖縄の中学校と高校の特別活動は比較的良好に実施されている。先行研究は特別活動の役割を高く評価したが、沖縄ではそれ以上の効果を認めることができた。特に高校では中学校以上に良好に実施されており、その役割が大きく認められた。そのため、先行研究では中学が高校より優勢であったが沖縄では高校が中学校より優勢であるという「逆転現象」が起きている。しかしこの「逆転現象」は、沖縄の中学校における管理主義的傾向と高校における大学進学指導の脆弱さをはしなくも露呈している可能性をはらんでいる。

学級活動・ホームルーム活動と生徒会活動では教員・学校の指導の熱心さの値を生徒の参加の熱心さの値が下回っている。このことは先行研究でも沖縄でも中高共に共通していることである。だが、沖縄では中高共に学校行事と部活動にもそのギャップが存在しているため学校行事指導と部活動指導の効率化に課題があると言える。

特別活動全体で社会に役立とうとする気持ち（社会貢献意識）を身につけることができた値が沖縄の中高共に高いことは、沖縄の特色として捉えておくことは意味がある。

調査結果は先行研究同様、沖縄の中高でも部活動の効果が他の活動より大きいことを示した。これは、特別活動本来の活動が部活動の果たす役割に及ばないということを示唆し、今日のわが国の特別活動の課題を提起していると言えよう。特に中高共に生徒会活動に課題が多い。

個別的な課題と特長では、沖縄の中学校では、学級としてまとまりのある活動が必ずしも多くない、学校行事で自分たちの思いを発信することが十分にできていない、学校行事への参加が熱心というわけではないという課題がある。沖縄の高校では、「学級の問題解決」と「進路学習」に特長があった。一方、部活動への生徒の参加意識が低調であることとリーダーシップ形成が課題となっている。

本稿の成果が今後の沖縄の中学校と高校の特別活動の改善に資することを期待したい。

注

(1) 日本特別活動学会研究開発委員会「特別活動の社会性獲得に関する調査報告書～大学生が認め

る特別活動の多大な効果～」、2011年3月。主な研究担当者は有村久春・帝京科学大学、高階怜治・教育創造研究センター、上岡学・武蔵野大学、本間研一・白鷗大学、松岡敬興・桃山学院大学、武藤孝典・信州大学名誉教授。

(2) 先行研究の「1 調査の概要」の「要約」に沿いつつ、「3 調査結果から（コメント）」を要約したものである。

表1 中学校の調査結果

上欄：今回 下欄：先行研究

		「中学」基本データ（質問番号順）	1	2	3	4	3+4 (中)	3+4 (高)
A 学 級 活 動	1	学級としてまとまりのある活動が多かった（学級のまとまり）	2.0	20.9	46.4	30.7	77.1	88.2
			2.5	15.1	57.4	25.0	82.4	64.6
	2	学級での自分のあり方や他の仲間の理解がよくなった（自他認識）	0.0	17.0	50.3	32.7	83.0	88.3
			3.5	22.5	54.4	19.6	74.0	67.2
	3	学級の活動へ溶け込もうとする態度が身についた（集団受容）	2.0	19.6	43.1	35.3	78.4	90.2
			5.6	21.8	42.5	30.2	72.6	66.4
	4	学級の問題について解決のための話し合いが有効であった（学級の問題解決）	3.9	32.0	43.8	20.3	64.1	84.9
			10.2	38.2	35.4	16.1	51.6	44.4
	5	学級として協力しあう雰囲気はかなり高かった（協力性）	5.2	18.3	46.4	30.1	76.5	91.1
5.6			20.7	41.1	32.6	73.7	66.8	
6	学級の役割を分担したり仕事を分け合ったりした（学級の役割分担）	0.7	12.4	45.8	41.2	87.0	92.2	
		3.2	16.8	41.8	38.2	80.0	67.4	
7	リーダーシップを発揮する生徒がいてまとまりに役立った（リーダーシップ力）	0.0	13.8	36.2	50.0	86.2	93.4	
		3.9	18.3	40.1	37.7	77.8	71.6	
8	生活の管理の仕方などをたくさん学ぶことができた（生活管理）	4.6	28.8	43.8	22.9	66.7	85.0	
		11.9	44.2	34.7	9.1	43.9	41.3	
9	進路についての知識を多く学ぶことができた（進路学習）	2.6	24.8	48.4	24.2	72.6	92.2	
		12.1	33.5	40.9	13.5	54.4	69.0	
B 生 徒 会	10	生徒会が活発で選挙に立候補する生徒が多かった（立候補）	11.1	45.1	30.1	13.7	43.8	50.3
			21.0	45.6	26.3	7.1	33.5	29.3
	11	生徒会は自主的・自立的に行われることが多かった（自主・自立）	7.2	24.8	53.6	14.4	68.0	79.6
			9.8	30.2	44.9	15.1	60.0	60.4
	12	各種委員会など全校生徒の参加意識が高かった（参加意識）	5.9	40.5	36.6	17.0	53.6	66.6
12.2			37.8	43.0	7.0	50.0	34.8	
13	生徒会のリーダーシップはかなりよかった（リーダーシップ力）	2.6	25.2	46.4	25.8	72.2	75.8	
		12.3	35.2	35.6	16.9	52.5	47.8	
14	生徒会の全生徒への説得力や働きかけはよかった（働きかけ）	3.3	34.2	45.4	17.1	62.5	77.2	
		15.8	35.8	35.1	13.3	48.4	44.4	
C 文 化 ・ ス ポ ー ツ 活 動	15	自分たちで企画したり、構想することが多かった（企画力）	9.2	33.3	40.5	17.0	57.5	83.7
			10.1	33.9	36.0	19.9	55.9	74.5
	16	学校行事を進めるとき、チームワークを発揮できた（チームワーク力）	2.6	13.7	52.3	31.4	83.7	90.2
			3.5	11.5	44.8	40.2	85.0	82.3
	17	学校行事を行うとき、生徒の創意工夫が発揮できた（創意工夫）	3.3	21.6	58.8	16.3	75.1	88.3
			4.6	27.4	44.2	23.9	68.1	75.6
	18	学校行事で自分の感性を豊かに磨くことができた（感性を磨く）	4.6	23.5	54.9	17.0	71.9	86.2
7.7			29.4	49.0	14.0	62.9	63.0	
19	学校行事を進めるとき、リーダーシップを発揮できた（リーダーシップ力）	10.5	36.6	32.7	20.3	53.0	69.9	
		13.4	32.4	34.9	19.4	54.2	52.8	
20	学校行事で自分たちの思いを発信することができた（発信力）	5.2	32.0	44.4	18.3	62.7	86.9	
		3.9	26.8	47.9	21.5	69.4	64.9	
21	学校行事で目標達成感が高まった（目標達成感）	4.6	15.0	51.0	29.4	80.4	92.8	
		5.0	16.0	33.5	45.6	79.0	80.4	
D 部 活 動	22	自分でやりたいことを選ぶことができた（自発性）	4.9	8.3	34.0	52.8	86.8	89.9
			3.5	9.5	21.8	65.1	87.0	86.0
	23	自分から進んで一生懸命努力することが多かった（努力）	3.5	17.4	32.6	46.5	79.1	80.8
			4.3	10.1	33.1	52.5	85.6	81.5
	24	生徒が自主的に活動することが多かった（自主性）	2.8	16.0	47.2	34.0	81.2	89.3
			3.9	18.6	44.2	33.3	77.5	81.8
	25	先輩・後輩などの人間関係について多く学んだ（人間関係形成力）	4.2	9.0	33.3	53.5	86.8	87.0
5.3			14.7	25.6	54.4	80.0	78.5	
26	部内は何事にも協力的であった（協力性）	5.6	14.6	36.1	43.8	79.9	81.6	
		6.5	21.9	41.4	30.2	71.6	73.2	
27	一人ひとりの責任感が強く求められた（責任感）	4.2	17.5	39.2	39.2	78.4	83.1	
		6.4	24.7	37.5	31.4	68.9	72.3	

28	試合に勝つなど達成感が高かった（達成意欲）	3.5	17.5	33.6	45.5	79.1	84.6
		6.0	14.2	28.0	51.8	79.8	77.3
29	部内の連帯意識がかなり高かった（連帯感）	3.5	13.2	38.9	44.4	83.3	85.3
		7.7	18.6	32.5	41.2	73.7	75.1
30	チームワークが何よりも重要であった（チームワーク力）	2.8	13.9	30.6	52.8	83.4	87.7
		6.8	18.3	31.2	43.7	74.9	76.6
31	主体的に考え、表現する力（主体的表現力）	0.7	14.1	52.3	32.9	85.2	94.0
		1.1	12.9	58.1	28.0	86.0	81.5
32	自分から進んで行動する力（主体的行動力）	1.3	12.6	41.7	44.4	86.1	96.0
		1.4	10.8	49.8	37.9	87.7	84.5
33	自分の力を高めようとする気持ち（向上意識）	1.3	12.0	39.3	47.3	86.6	91.9
		1.8	11.5	51.1	35.6	86.7	77.9
34	物事をやり遂げようとする粘り強さ（粘り強さ）	0.7	6.7	38.0	54.7	92.7	94.7
		1.8	9.9	42.3	46.1	88.4	87.1
35	チームなどに溶け込もうとする気持ち（集団意識）	1.3	6.0	40.3	52.3	92.6	96.0
		0.7	10.4	39.4	49.5	88.9	88.6
36	チームワークなど連帯感（チームワーク力）	2.0	2.0	37.6	58.4	96.0	96.0
		2.1	7.7	35.7	54.5	90.2	90.4
37	コミュニケーションの力（コミュニケーション力）	0.0	9.3	39.3	51.3	90.6	94.0
		1.4	7.7	38.5	52.4	90.9	88.2
38	リーダーシップの力（リーダーシップ力）	2.0	18.0	41.3	38.7	80.0	74.6
		3.1	19.2	47.2	30.4	77.6	76.4
39	人間関係を築く力（人間関係形成力）	1.3	6.0	38.7	54.0	92.7	91.3
		1.4	6.6	32.5	59.4	92.0	91.1
40	自分の行動についての責任感（責任感）	1.3	5.3	42.0	51.3	93.3	90.0
		1.1	11.4	41.3	46.3	87.5	85.9
41	周囲の状況をみて正しく判断する力（状況判断力）	1.3	9.3	42.0	47.3	89.3	96.1
		3.5	11.7	48.4	36.4	84.8	83.1
42	仕事や競技などの力（競技力）	1.3	14.0	47.3	37.3	84.6	94.6
		2.8	15.4	50.7	31.1	81.8	78.6
43	物事を計画的に行う力（計画力）	1.3	17.3	47.3	34.0	81.3	87.3
		2.5	21.6	45.9	30.0	76.0	83.4
44	新しいものを生み出そうとする創造力（創造力）	2.7	22.3	41.2	33.8	75.0	82.6
		4.2	30.0	47.7	18.0	65.7	68.3
45	自ら学ぼうとする意欲（学習意欲）	1.3	10.7	49.0	38.9	87.9	91.3
		4.6	22.2	50.4	22.9	73.2	72.0
46	社会に役立つようとする気持ち（社会貢献意識）	3.3	20.0	45.3	31.3	76.6	84.5
		7.7	38.0	39.8	14.4	54.2	61.0
47	生き方や進路についての考え方（進路意識）	2.7	20.0	43.3	34.0	77.3	94.0
		4.9	28.8	48.4	17.9	66.3	80.4
48	学級活動への参加	3.3	25.3	46.7	24.7	71.4	82.5
		5.3	25.1	43.5	26.1	69.6	61.7
49	生徒会への参加	23.3	43.3	16.7	16.7	33.4	47.0
		32.6	34.4	15.8	17.2	33.0	25.0
50	学校行事への参加	4.7	18.0	43.3	34.0	77.3	89.9
		2.8	10.6	39.2	47.3	86.6	80.2
51	部活動への参加	8.8	8.8	28.4	54.1	82.5	73.7
		5.3	8.5	20.3	65.8	86.1	81.0
52	学級活動の担任の指導	3.3	8.7	48.0	40.0	88.0	86.4
		3.2	21.1	45.1	30.6	75.7	67.8
53	生徒会の担当や学校の指導	3.4	15.4	52.3	28.9	81.2	81.2
		7.8	31.0	44.5	16.7	61.2	54.8
54	学校行事への指導	2.7	10.7	48.0	38.7	86.7	90.0
		2.5	13.0	48.6	35.9	84.4	71.4
55	部活動への担当や学校の指導	2.7	10.7	42.0	44.7	86.7	86.4
		5.5	15.3	32.1	47.1	79.2	79.6

表2 高校の調査結果

上欄：今回 下欄：先行研究

		「高校」基本データ（質問番号順）	1	2	3	4	3+4 (高)	3+4 (中)
A ホ ー ム ル ー ム 活 動	1	学級としてまとまりのある活動が多かった（学級のまとまり）	2.0	9.8	40.5	47.7	88.2	77.1
			9.2	26.2	45.8	18.8	64.6	82.4
	2	学級での自分のあり方や他の仲間の理解がよくなった（自他認識）	2.0	9.8	38.6	49.7	88.3	83.0
			7.7	25.1	48.7	18.5	67.2	74.0
	3	学級の活動へ溶け込もうとする態度が身についた（集団受容）	1.3	8.5	34.6	55.6	90.2	78.4
			8.9	24.7	42.1	24.4	66.4	72.6
	4	学級の問題について解決のための話し合いが有効であった（学級の問題解決）	2.6	12.4	43.1	41.8	84.9	64.1
			18.5	37.0	32.6	11.9	44.4	51.6
	5	学級として協力しあう雰囲気はかなり高かった（協力性）	1.3	7.2	34.2	56.9	91.1	76.5
		8.9	24.4	37.6	29.2	66.8	73.7	
6	学級の役割を分担したり仕事を分け合ったりした（学級の役割分担）	0.7	7.2	41.2	51.0	92.2	87.0	
		8.5	24.1	40.7	26.7	67.4	80.0	
7	リーダーシップを発揮する生徒がいてまとまりに役立った（リーダーシップ力）	1.3	5.3	26.3	67.1	93.4	86.2	
		6.6	21.8	35.4	36.2	71.6	77.8	
8	生活の管理の仕方などをたくさん学ぶことができた（生活管理）	2.6	12.4	45.1	39.9	85.0	66.7	
		16.2	42.4	31.4	10.0	41.3	43.9	
9	進路についての知識を多く学ぶことができた（進路学習）	1.3	6.5	28.1	64.1	92.2	72.6	
		8.5	22.5	38.4	30.6	69.0	54.4	
B 生 徒 会	10	生徒会が活発で選挙に立候補する生徒が多かった（立候補）	8.5	41.2	33.3	17.0	50.3	43.8
			29.3	41.5	23.7	5.6	29.3	33.5
	11	生徒会は自主的・自立的に行われることが多かった（自主・自立）	4.6	15.8	36.2	43.4	79.6	68.0
			13.7	25.9	40.0	20.4	60.4	60.0
	12	各種委員会など全校生徒の参加意識が高かった（参加意識）	5.2	28.1	35.9	30.7	66.6	53.6
		22.2	43.0	26.7	8.1	34.8	50.0	
13	生徒会のリーダーシップはかなりよかった（リーダーシップ力）	3.9	20.3	34.0	41.8	75.8	72.2	
		15.9	36.3	33.3	14.4	47.8	52.5	
14	生徒会の全生徒への説得力や働きかけはよかった（働きかけ）	3.3	19.6	37.3	39.9	77.2	62.5	
		21.5	34.1	34.4	10.0	44.4	48.4	
C 文 化 ・ ス ポ ー ツ 活 動	15	自分たちで企画したり、構想することが多かった（企画力）	2.6	13.7	46.4	37.3	83.7	57.5
			8.1	17.3	38.4	36.2	74.5	55.9
	16	学校行事を進めるとき、チームワークを発揮できた（チームワーク力）	0.7	9.2	34.6	55.6	90.2	83.7
			3.7	14.0	39.9	42.4	82.3	85.0
	17	学校行事を行うとき、生徒の創意工夫が発揮できた（創意工夫）	1.3	10.5	38.6	49.7	88.3	75.1
			6.3	18.1	41.3	34.3	75.6	68.1
	18	学校行事で自分の感性を豊かに磨くことができた（感性を磨く）	2.6	11.2	44.1	42.1	86.2	71.9
		9.6	27.4	43.0	20.0	63.0	62.9	
19	学校行事を進めるとき、リーダーシップを発揮できた（リーダーシップ力）	5.2	24.8	36.6	33.3	69.9	53.0	
		14.8	32.5	33.6	19.2	52.8	54.2	
20	学校行事で自分たちの思いを発信することができた（発信力）	3.3	9.8	47.7	39.2	86.9	62.7	
		8.1	26.9	39.1	25.8	64.9	69.4	
21	学校行事で目標達成感が高まった（目標達成感）	0.7	6.5	34.0	58.8	92.8	80.4	
		9.3	10.4	40.0	40.4	80.4	79.0	
D 部 活 動	22	自分でやりたいことを選ぶことができた（自発性）	6.2	3.9	31.8	58.1	89.9	86.8
			7.2	6.8	21.1	64.9	86.0	87.0
	23	自分から進んで一生懸命努力することが多かった（努力）	6.9	12.3	27.7	53.1	80.8	79.1
			7.9	10.6	26.4	55.1	81.5	85.6
	24	生徒が自主的に活動することが多かった（自主性）	6.2	4.6	28.5	60.8	89.3	81.2
			6.4	11.7	33.7	48.1	81.8	77.5
	25	先輩・後輩などの人間関係について多く学んだ（人間関係形成力）	6.9	6.2	28.5	58.5	87.0	86.8
		12.1	9.4	23.0	55.5	78.5	80.0	
26	部内は何事にも協力的であった（協力性）	6.2	12.3	28.5	53.1	81.6	79.9	
		9.8	17.0	34.0	39.2	73.2	71.6	
27	一人ひとりの責任感が強く求められた（責任感）	7.7	9.2	27.7	55.4	83.1	78.4	
		12.1	15.5	31.4	40.9	72.3	68.9	